

滋賀県介護のイメージアップ施策検討部会 (令和元年度 第1回)

- 日 時 令和元年8月29日(木) 14:30～16:30
- 場 所 滋賀県大津合同庁舎6-A会議室
- 出席委員 後藤委員(部会長)、東委員(副部会長)、本條委員、松井委員、北村委員、森本委員、澤村委員、生田委員(川岸委員代理)、鈴木委員、楠神委員、西川委員、藤田委員
- オブザーバー 寺田氏
- 議題
(1) 令和元年度の県の広報・啓発施策について

1. 挨拶

【事務局】

- 介護職員不足は喫緊の課題であり、県としても介護人材の確保・育成・定着に皆様方各団体や関係機関と一緒に各種施策に取り組んできたところ。
- しかしながら、先月に公表された、ある就職支援企業が実施した介護職へのイメージに関する調査でも、実態とかけ離れた思い込みが、就業の妨げの一つだと指摘されている。一方で、同調査において、介護サービス業への就業意向がなかった方の内、事実を知ることによって意向ありに変わったという結果も出ている。
- 介護の誤ったイメージやマイナスイメージの払しょくを図り、介護に興味を持ってもらう入り口の部分の取組が必要ではないかという声を多方面からいただいていることから、本日の会議では、皆様方から忌憚のないご意見・ご提案をいただきたい。

【各委員自己紹介】

2. 部会長および副部会長の選任について

- ・委員から後藤委員を部会長に推薦する旨の発言があり、出席委員全員異議なく、後藤委員を会長に互選
- ・後藤部会長が東委員を副部会長に指名

【部会長】

- 現実の職場とイメージがかけ離れている部分が、人材確保に結びついていかない原因になっているというような話があったが、日々、私たちが現場でかかわる中では、人材確保は本当に厳しいことを実感している。
- 団体がこういった形で一堂に会して、このイメージアップについて話すというのは、多分初めてだと思うので、皆様の新しい発想を期待しつつ、よろしく願いしたい。

3. 議題(1) 令和元年度の県の広報・啓発施策について

【副部会長】

- 県の予算要望で、イメージに関する要望も介護福祉士会から出しているが、その理由としては、

もちろんその人材確保が大切だということだが、どこの人材を募集していったらいいか、どこに焦点当てていったらいいかということに関しては、私も正直悩んでいる。

- 一つは、これからこの介護を支えて行くには、もちろん外国人やシルバー人材というのも必要になってくると思うが、第1にはやっぱり若者。この介護の仕事を目指したい若者を増やすことが、私は1番じゃないかなと考えている。
- もう一つは、そのイメージを変えたいところで言うと、先月、私もフィリピンのほうに視察に行ったが、フィリピンという国はEPA制度が早くから始まっていて、日本で介護職員とか医療で働かされている方がすごく多くて、制度によって3年後に資格取得ができないと帰国されている方がかなり数多い。
- 日本の制度が変わって技能実習制度ができたところで、再度日本の介護分野で働きたい方がおられるという情報を得たので、向こうの学校や送り出し校のほうに視察に行ってきた。
- 実際に介護福祉士の資格を取られて、また日本で働きたいという方も中にはおられたが、ちょっと残念な情報もあって、学校の先生とか学生等から、日本の介護のイメージは悪いという話をされた。実際に日本に来て働いて、やっぱり人間関係が悪いとか、私らばかりきつい労働させられて、もう日本の介護で働きたくないというような声が、数多く上がっていると。外国の方は、ネット上のコミュニティーをよく使われていて、それを見ていると介護の悪いイメージばかり。技術指導して、資格を取得するための研修をしたりする施設もいっぱいあるよということをお大言したが、なかなかそういう情報はフィリピンには入ってこない。
- うちは中国人の方々に技能実習制度で来ていただいているが、中国の学校に、もううちの会社のうわさが立っているらしい。滋賀県の湖青会さんは、給料安いけど人は良いよとか。本当にそういうコミュニティーを見ている外国の人で、それ見て選んで来られます。滋賀県が選ばれようというイメージづくりをこの滋賀県で持っていければ、すごく大きいかなと思う。
- それがCMなのか番組につくるのか、何にしたらいいのかわからないが、何かそういう手を打たないと選ばれる県にはならないかなと。
- 絶対にこれから手を出して行かないとだめな人材になってくると思うので、その時により質の高い外国人を雇用するためにも、やっぱりイメージアップをするような何か事業をしたほうがいいかなと思う。

【オブザーバー】

- 介護とかにかかわってない一般人としての私のイメージは、テレビとかのメディアで、介護施設で虐待があったとか、そういう話がよく出ているので、あまりイメージとしては良くないし、就職活動においても、一覧が出ている中で、やっぱり給料の面でほかのところに比べると安いので、なかなか一般の職種から介護に行こうという気持ちへ向くことがないのが正直な意見。
- 私の知り合いにも、介護のところに働きたいという意思があつて学校に行つて、いざ介護の現場に行くと、介護のほうでも人が足りないこともあつて、もっとうまくやつてとか早くやつてと言われて、勉強してきた部分と実際のギャップの大きさによって、なかなか続かない。介護大変やつたしもう行くのはちょっと、と思っている人もいと聞いたことがある。

【部会長】

- 私は施設系で、特養の現場の施設長同士で話しているが、例えばイメージギャップは現実をそのまま発信すればそれで良いのかを確認しておかないといけない。先ほどの話のように、ただ

単に誤解されているということであれば、それをそのまま、今の介護の現状を伝えればいだけのことだが、そうでないものをあえてつくり出していこうということとは違う。

○もちろん、ひどい事業所は別扱いとして、真摯に取り組んでもなかなか現場も非常に厳しい現実もあり、イメージアップとどう整理すると良いのかなという感じもしている。

○ただ単に入口として、言葉は良くないが、きれいにを見せて、入ったら勝ちみたいな話ではない。

【委員】

○全く畑違いの仕事からこの業界に来て、この業界はきついか、お金が安いというのは、うわさで聞いていたので、正直、続くかなとは思っていたが、いざ入ってみたら、思っているのと違った。

○元々おばあちゃん子だったので、高齢者と接するのもそんなに苦ではなく、そのおかげで今、10年くらい続けてこられたと思う。

○マスコミとかテレビとかでは、虐待の話しかないのだから、それを見ている子ども達は、そのイメージを持ってしまうと思う。

○高校などでも福祉科が結構できてくるらしく、そういう子たちにもっとアピールしていくべきではということ、一緒に研修学んでいる人たちからも言われて、もっと小学生や中学生などに現場に来て高齢者と触れ合ってもらって、思っていたのと違うというのを感じてもらった方がいいのではと最近思っている。

【委員】

○街かどケア滋賀ネットという団体にも所属していて、滋賀県のほうから委託を受け、5年間定住外国人の方を対象にした介護職員の初任者研修を開催している。この間の土曜日、日曜日面接して、20人定員のところ22名の方が応募されて、20名で来週から、研修が始まる。

○この5年間で、定住外国人の方は、普段は工場で働いたり、ホテルのベッドメイキングなどされたり、時給で言うと1,200円から、1,500、1,600円で働かれている方が、わざわざ介護の分野で給料安くなるが、面接してでも来たいと。

○面接のときに話を聞いていると、魅力というのは、介護の施設では頑張ったら報われる。つまり、急にリストラに遭うようなことがなくて、一度就職して、ちゃんと真面目に仕事したら続けられると。今、日本の工場などでは、雇用の調整弁になっているので、今月まで目いっぱい残業したと思ったら来月から異動、みたいなことが多分にあるから、定住外国人の方にしたら安定した職であるということと、ありがたうと言ってもらえる職だと聞いている。

○給料が安いと聞くが、それを上回るものを感じて、わざわざ転職しようと来られている。そういう安定した職であることや、ありがたうと言ってもらえる魅力を引き出して、それを伝えることができたと思う。

○先日テレビ番組で、72時間定点カメラを置いて、海上保安庁の訓練学校を放送していたが、そこに、18歳や転職した20歳代の男女がたくさん来るが、就職した理由は映画を見て憧れたからだ。ああいう風に人を救う仕事をやってみたくて転職してきたとのこと。それこそケアニンではないが、介護の分野の魅力を、何かぶつけられたら、新しい学生さんやそれ以外からでも興味を持って来られるのかなと思っている。

【委員】

○私は結婚してからこの業界に来たが、前の仕事をやめたときに、奥さんに介護福祉士は国家資格なので、そういうので働いたほうがいいんじゃないかと言われ、湖青会で働いておられた方から声をかけていただいて、今までやっている。

【委員】

○私は最初は建設で、むしろ建設の時も3Kと言われていたが、それでも皆がなぜ残っていたかという、ものをつくるというプライドがあって、ものづくりは日本を支えるような、良い仕事であるという気持ちは皆持っていた。介護も同じで、根幹を支えている。

○私は現場を見たことなかったので、良いことするんだなというイメージがあった。

【副会長】

○介護の仕事がなくなったらその社会はすごく悪くなるので、社会を支えているというようなイメージもこの事業で伝えられたらと思う。確かに、実際の現場では人は少ないし、高齢者とゆっくり関わる時間があるかという、ない事業所も多いと思うが、その中でも関わらないからといって介護しないわけではない。

【発言者混在】

○これは介護のイメージアップということか。滋賀で介護をすると良いよ、または介護の業界は良いですよということか。

○それも付け加えるとすごく良いと思う。

○他府県からの呼び込み。

○滋賀の学生も京都などに行くので、もったいない。

○滋賀は都会ではないけど、最近の若者は実家の近くで働きたい。

○給料で他府県には勝てなくても、それ以外の介護の魅力が滋賀にあればと思う。それが教育システムなのか、具体的にはわからないが。

【委員】

○介護の魅力といったときに、給料は安いけどそれらが付加価値になる。付加価値を表に出して、そのイメージアップを図るということと、この部会自体が介護の日に特化したものではなくて、一つのムーブメントみたいなものでやり続けたいといけないことだと思う。介護の仕事とか滋賀県の介護がなど、ちょっと広い意味でとらえてもらう方がいいのかなと思う。

○中身としては別に飾るわけではなくて、ぶっちゃけを出していきながら、よっぽどひどい事業所はごく一部だと思うので、そういう事業所は淘汰されて行かざるを得ないかもしれないが、それは時代の趨勢の中で、明らかになっていくことなので、少なくとも我々は前向きに、情報をどんどん発信して行って、実際に足を運んでもらえるような種まきを、それこそ幼稚園や保育園の子供たちから大学生あるいは社会人、アクティブシニアの人たちまで広くまいていく必要があるのかなど。

○県内の介護事業所は星の数ほどあるわけなので、それぞれのエリアの中で勤める人もあるし、遠方がいい人もいるし、業界団体それぞれあるが、少なくともその地域社会に貢献できるような、我々でありたいと思う。

【委員】

- 4月の話だが、むすびフェスアンドマルシェという形で、作業療法士と介護福祉士、車椅子の障害者の方のラッパーを呼んで、県内の服屋の駐車場を貸し切って、フェスとマルシェをした。
- 新聞にも取り上げていただいて、集客として600人前後の方が来てくださり、全く介護の世界を知らない方や医療の世界を知らない方もたくさん来ていただいて、車椅子体験、骨密度測定、病院の紹介などを行い、それをきっかけとして介護施設で働かれている方は、聞くだけでも3名増えている。また今度の10月27日にも開催しようと思っているが、毎回、遠い人で東北など、県外からも多く参加されている。
- 青年部の代表、青年部としても若い人とこういう形で、音楽と共にとか、マルシェ行くついでに聞くとか、そういう抱き合わせで介護現場や医療現場に触れ合ってもらおうというのが大切かなと思った。
- メンバーである作業療法士の方が音楽を昔からやっているのので、そのつながりで介護職員などを集めてコミュニティーつくって、そこで啓発活動できたらいいなっていうことで始めた。

【部会長】

- 施設で飼っている羊について、2年目に入っているが、今年は2頭飼っている。
- 最初、施設は行きづらいということ、結構言われていた。
- 羊を飼うのと地域サロンの支援も一緒にやったので、両方が結びついているところもある。とりあえず、気軽に羊を見るという行為は構えなくてもできるので、自然体で人が寄ってくれるようなことをしたかった。実際羊を飼って、地域の方が散歩途中に、ここ見てもいいのみたいのから始まって、ここ入ってもいいの、と声をかけられるようになった。カルナハウスふれあい広場ということで大きく看板もつけているので、それによって施設のイメージはやわらかく感じ取ってもらえるようになった。
- 実際、看板もどちらかという子供向けにつくっているの、お子さん連れの散歩、職員の子どもが何人か来ているし、保育園も来ている。そういう雰囲気が重なっていくと、施設全体の雰囲気にそれが伝わって、地域の方にも明るい話題の提供になっているかなと。報知新聞とかにも載せていただき思った以上に広報ができているのかなと思う。

【委員】

- 施設が地域の中で社会資源になればいいと思うのと、私たち自身がイメージを変えることが必要。どうしても特養や老健は介護施設みたいなイメージを、私たち自身も持っているの、IT産業とか見ていると、垣根の低いところで、私服でフランクにやっている。
- 職場説明会とかのイメージを考えて私たちも、例えば職場説明会を人材センターと一緒にやっていくとかいうことがあってもいいのかなと思っている。だから、もうちょっとフランクにやわらかくいろんな御意見を出してもらえたらいいのかなと思う。

【委員】

- 福祉の業界は悪くないと思う。以前、看護師は悪いイメージがあったが、今は良いイメージになっている。それは報道が悪いイメージを植えつけていることが大きいと思う。
- この業界とほかの業界と何が違うかという、外向きの発信力が少ないと感じていて、普通にやっていることを普通にアピールすれば、決して悪い方向には行かないと思っている。

- 企業はホームページも充実させて、常に更新して、誰かがうまくヒットするようになって
いる。福祉業界はどこもなかなか更新できてないまま、ずっと同じ状況で、どこを見ても大
体同じようなイメージのホームページが並んでいて、それをどこから入ったらいいのかが全
然わからない。福祉を検索しないとどこもヒットしないから、興味がない人が見てもらえな
いというのがあると思う。
- 私は、ゆいの里ですずっと働いているので、どういうイメージで就職したかと問われたら、何
のイメージもなく就職した。おじいちゃんとおばあちゃんが好きで、家族の近くで働けるか
らという感じで。
- この間、守山高校の講師に、県の人材センターからご依頼いただいて行ったが、行った子が
イメージないと言っていた。福祉も医療も一緒だと。介護に対して、良いイメージも悪いイ
メージもなく、これから介護のイメージをつくらと言われていた。福祉は良い仕事というか、
自分の中の満足度が上がる仕事で、自分の価値観も上がる仕事なので、それをいかに若い世
代に伝えていくかの発信の仕方を今後検討していかないといけないと思う。
- 発信しても、狭いところで人を集めようという発信の仕方になっているので、そうではなく
広くたくさんの人が見てもらえるような発信の仕方を、みんなで考えて行かないといけない
と思っている。

【部会長】

- 介護業界のホームページは、利用者を獲得するためのホームページということでもなく、ホ
ームページをどういうふうにとらえて、どう発信していくかというのが整理できてない部分
もあると思う。

【委員】

- 私も違う業種で25歳までは、スペインでスペイン語で仕事していた。そのときの仕事のや
りがいいは、通訳者なので、企業と企業がうまく繋がり、笑顔が生まれること。
- 25歳からリハビリの学校に行った。卒業してから5年間は、大学病院で理学療法士として
働いていた。そのときの医療の世界におけるやりがいはわかりやすく、お医者さんと病氣
を治して命を延ばすこと。患者さんの笑顔などがやりがいである。リハビリも一緒に、障害
を直して、生活復帰するということがやりがい。
- なぜ医療にやりがいがあるかという、ガイドラインとかエビデンスという科学的なものが
ちゃんと確立されているので、やりがいはこれだと明確に言いやすい。私が福祉の業界に來
て、いまだに介護福祉のやりがいというのは、私はわかっていない。私じゃこれだって言え
ない。
- 以前、介護・福祉人材センターのほうから福祉の魅力について喋ってくれと言われた時も、
福祉の魅力は何だろうかとずっと思っていて、それは説明できない。なぜ説明できないのか
と思うと、良い介護というのがよくわかっていなくて、それぞれの福祉従事者によって、良
い福祉、良い介護っていう価値が違い過ぎる。例えば、介護の質と皆言うが、一体介護の質
の良さというのは何なんだと。QOLを上げることなのか、ADLを上げることなのか、介
護度を下げることなのか、家族の満足度なのかというのは、何ひとつ研究はなく、何ひとつ
証明されてない。それぞれの持っている介護の質の良し悪しというのが違い過ぎて、魅力が
定まらないと普段から思っている。

○そういう中で、魅力は結局、ありがとうと言ってもらえる感謝されるっていうことに絞るしかないのかなと私自身思っている。ではこれをだれに発信するかというと、難しい。外国人、シニア層、若い人あたりだが、やっぱり若い人に発信していかないとと思うし、私自身は若い人のセカンドキャリアに向けて発信ではと。1回目の一斉の就職では、福祉は絶対つながらないのかなという諦めは正直持っています。セカンドキャリアとしてどこかで頭に残っていて、つながればいいのでは。

【部会長】

○魅力としてボヤッと楽しい職場とかそういう話ではなくて、専門性をきちっと示すことや、いわゆるプロ集団としての働き方などに対するアプローチというのも当然あると思うが、それにはそれに応えられる職場であり、それが発信できないといけないときに、おっしゃられた部分で、何をどのように発信するのかということに戻ってくる。そこの議論は多分、介護福祉士会で村田先生から出っていたのでは。

【副部会長】

- 私も介護の事に関しては、おっしゃったように魅力とかやりがいを答えるのは難しい。私もありがとうしかない。
- 介護は仕方がないかなと思うところがある。看護や医療と違って歴史が浅過ぎる。それで急速に伸びた。でも急速に伸びた割には、技術と知識って日本はすごい。これだけの歴史しかないが、それなりの技術と、考え方をやってやっている。今、介護保険の自立支援と尊厳の保持はすごいと思っている。
- 専門性に関しては、ほかの専門職は学校行かないと国家資格が取れないが、介護は3年前でいうと、国家資格受かったらだれでも取れるぐらいの専門性のない資格であるというのは感じているので、幅広いなと思う。
- 専門職としてプロ意識持ってやっている介護福祉士もいれば、その逆もいると思う。それを、今の日本の社会の中で、専門性を持ってプロ意識持ってくれと言っても、持てないだろう。
- 介護の魅力を伝えるのは難しいが、ありがとうという言葉は私も大事なかなと思っている。私はやり始めて、やはりありがとうという言葉が自分の仕事のやりがいに繋がっているところはあるし、それは魅力の一つかなと思っている。

【委員】

○一般企業はノルマがあって、その中でやることに達成感はある。でも、この業界でやっていたら、ありがとうと言われることで、手前ですぐに達成感を感じる。うちの会社もそうで、やっぱりありがとうと言われるから続いている子もいる。そういう意味では、これだと言うよりかは身近に幸せがあるということは、魅力の一つではないか。

【委員】

- 人材センターのホームページを、この3月にオープンしたが、就職フェアで来てくださった出店法人さんや職員さんに、福祉職場で働く魅力をメッセージカードに書いてもらって、それを写真撮ってホームページに載せている。
- ありがとう、笑顔の交換、たくさんの人生に出会えるなどの意見が多かった。

- 魅力発信においては、大学等でふく楽カフェとして、現場の職員さんと学生さんとの交流の機会を持っていただいている中でも、笑顔とか、ありがとうなどが出てきている。そういうところに学生も共感をしているのではないかと感じる。
- 福祉を学んでいる学生さんでも、現場で働いている方との交流の機会は中々ない。ふく楽カフェのアンケートでは、話をしてみて、介護の職場へのイメージが、より良くなったということがほぼ100%。そういう機会を、いろんなところでつくっていくのは非常に大事と思っている。
- 今年は高校生向けの職場体験のチラシを、特別支援学校も含めて県内の全高校に、私立も公立も併せて約3万人弱の1、2年生に配って声掛けを夏休み前にしたが、実際に体験に至っているのはまだ10名弱。ただ、もともと福祉を学んでいる生徒さんではなくて、普通の普通科で学んでいるような学生や、今まであまり手が上がらなかった守山、草津東、国際情報高校等からも反応があり、きちっと情報届けてあげると反応がある生徒もいると思った。来年はさらに時期を早めて、PRするとか、学校の先生にもアピールして行って、より参画してもらえるように思っている。

【部会長】

- 先ほどの論点のところ、一つは悪いイメージであるとか、何も知らないっていうのも非常に多いという現実をとらまえて、現場そのものを、そのまま発信する機会をつくればいいんじゃないかというところから、もう一步踏み込んで介護の魅力の話が、皆さんから出たのかなというふうに思う。
- 魅力っていうことになると、仕事の社会的な意味とか、やりがいとか、ありがとうと言ってもらえる仕事であるとか、笑顔がたくさん見られる職場であるとか、職員同士の中では、他の産業と比べると優しい職場と言えるのではないかと、専門性という部分では、なかなか発信しにくい部分はあるのかなという話も、あわせて出てきた。
- 誰にというところでは皆さん、これからの世代を担っていただく若い人達にというのが、多かったと思います。

【事務局】

- 介護の仕事の本質は、何なのかというところだと思っている。本質というのは難しいが、実際にどのような仕事か説明するときに、各々一致するのか。
- また、目に見える介護・福祉業界の一部を切り取られていることが、悪いイメージに繋がっているのではないかと。
- 先ほどの話にあったように、医療職が治療にベースをおいているとするならば、介護・福祉職が他に負けないところは、個人の生活に視点をおいて、その人の生活や人生を支えていること。
- また、医療も生活のための医療であるといわれていて、結局、生活という面で全てが繋がってくると思うが、その最大の立役者は介護職だと思う。
- そこが正しく認識されていないのではと思うし、それは伝えに行かなくてはならないのではないと思う。

【副部会長】

○排せつや食事の介助をするのが、介護の仕事の1番大事なところではなくて、生活を支えることによって、その人の家庭を支えること、その人の家族も支えることにもなって、地域や社会を支えていることに繋がっているというところのイメージを発信できれば、仕事の魅力につながると思う。どうしても介護の仕事は、食事やお風呂の世話をするというイメージを持たれがちだが、そうではないというところ。

【委員】

- 医療は治療が目的というところだが、我々は生活を支援する仕事で、生活支援は何かって言ったら、究極的にはその人の幸せだから、笑顔が出るとか、相手がありがたいと思うからありがたうって言われるとか、というのが具現化されてくる。
- 日常のやりがいと、仕事の魅力と言ったときに、私は一つに感動体験があったら、それはそのやりがいにつながるかなと思っていて、そこに至らない人も当然いると思うが、そこでやりがいを見出した人は、この人の何かが気になってどうこうっていうのは施設内でもよく聞くような言葉かなと思っている。
- 一人一人そこは違うと思う。幸せの希求という場合に、幸せの尺度も違うし、内容も当然変わってくるから、エビデンスがないと言われると、無いかなと思う。
- 専門職やプロという場合に、ついつい私たち介護福祉士は介護福祉士会に入っているから余計に、その排せつとか、入浴介助とか、どうしても技術的なところに行くが、ベースには人間としての人間関係をどう結んでいくのとか、その信頼関係を持ったベースがあった上での、その人の生活の支援、そこに介護技術が加わってくる。何層にもなっているところのベースとしては、その関係性をどう構築していくかというところ。
- 例えば、ロボットなら会話しながらの介助はできないが、人間だから会話しながらの介助ができる。だから、介助と言わずに、介護っていう言葉は人間が人間を介護するから介護っていう言葉が生まれた。というふうに、私自身言われてきたし、今ファーストステップで喋ったりする時は、その話をしている。
- 先ほど、そうありたいとか、そう願いたいと言われたけど、そこまで発信できるかは非常に難しい問題だと思っていて、まずは世間の社会のイメージを変えてもらうためには、取っかかりを作らなないといけないと思っていて、取っかかりをつくるために大きく、広く種をまかないといけないと思っている。仮にイベントするときに足を運んでもらって、そこで、ちょっとでもこんなにイメージが変わったと言ってくれる人が5人、10人、100人と増えていかないと難しいと思う。
- 休憩時間中に委員と話していたが、それぞれの施設や事業所の、地域の中で一定の努力は当然必要だと思っていて、でも業界として、滋賀県のケアを、滋賀県の介護を、滋賀県の高齢者をどうしていくのかっていうことを考えるために、できれば部会なので、そういう議論がここでは、あってしかるべきかなと思う。

【副部長】

○発信の部分は、このイメージアップのことにに関して、結構前からやりたいなというふうに思っていて、老健協会使っているいろいろと動いたりしていたが、何人かに大阪の介護福祉士会のCMやラインの提供についてどう思いますかなど、意見聞いたりとか、やっていく中で、ちょっとCM作ってみようかっていう話までいったことがあった。

- びわこ放送で介護のCM作って、できればポジティブシンキングみたいな形で作ってほしいんだというところまでは行ったが実現しなかった。
- この前、ある県議会議員に呼ばれて、予算対策委員会で発表したときに、イメージアップすることはすごく大事だと言われた。今どこの産業にしても人材不足だから、いろいろなイメージアップをやるうとしていると。
- 1番いいのは、トレンドドラマで介護ができればいいと思う。海猿じゃないが、あそこまで大ヒットするような外部のドラマができて、映画化までされるようなものができたら、大分イメージは変わるかなと思うが、それは途方もない予算。でも先ほど言われたように、看護でもイメージ悪かった時にたくさんドラマを作った。ちょっと前は医療。そういうのを見て目指される方は確かにいるから、1番いいのはトレンドドラマを作りたいとは言っていた。
- でもそれはさすがに、私もどういふふうにしたらいいかわからないし、そう言っている時にケアニンという映画ができて、賛同して去年に協会の中で何回か上映会した。確かに上映会をして、何人か一般の人が来て、それが就職につながったという話を聞いたから、やってよかったかなと思うが、そこで終わってしまった。
- さっきの県議会議員にそういう話したときに、今建築でもCMづくりをやっているとされた。じゃあ、それで来ているかという、あまり成果はあげられていないから、CMじゃなくて、もっと違うやり方でやったらいいんじゃないかという、御提案をいただいた。
- もう一つ考えていたのは、どこかの番組の枠をもらって、施設紹介もやったらどうかなど。介護でさっき言ったように老健も特養も訪問系も様々だが、一般の人はサービスの違いは知らない。そういうサービスを紹介する。
- もう一つはそこで働いている人たちを紹介することによって、その職員のやりがいにもつながるかなと思う。それで介護というイメージもよくなって、併せて、委員が紹介されたようなさまざまなイベントの紹介を、毎月か毎週かわからないですけど、放送するようなことをやれば、少しずつイメージは変わるのではと思っている。

【オブザーバー】

- 学生のアルバイトはあるのか。介護業界を目指している方はいるが、アルバイトで介護がもしあったら、実際に現場に入って、その違いとか、ギャップをできるだけなくしていくこともできるかなと思った。

【部会長】

- 介護の実習でギャップを埋めるっていうのもあるが、そのほかの福祉系でない方の、アルバイトっていうのはあるのか。

【委員】

- 先生にアプローチしたりするので、福祉系は龍谷大学生が近いので来てくれるが、経済学部などはない。

【委員】

- 今、インターンシップが言われていて、福祉科の学生は実習に来るが、それ以外の学生も就

職する前に3事業所ほど行くように言われているようなので、その中の1社に福祉の事業所なりが入れば、福祉の魅力も伝えられると思う。その福祉のところへの情報は、なかなか学校も自身も出せていない。そこら辺がもっと一般の学生さんにとって、一般企業と同様のインターンシップになれば、学生の参加も増えて、イメージも一気に変わるんじゃないかなと思う。足を運んでもらうっていうのは一つの手段であるので、アルバイトやボランティアはハードルがあるので、インターンシップという手段をどう使っていくかは大事だと思う。

【委員】

- 東近江では、一般の方を対象にした介護職員の初任者研修を、医療関係者とかと協力して4年間やっている。
- そこで普通科の学生さんにも案内チラシを配っていて、一昨年には普通科の高校3年生の方3名が受講されて、その後福祉系の仕事に就かれている。去年も1名の方が受講された。そのときに、福祉の魅力を感じていただけるよう、登壇していただくドクターや看護師、リハビリ関係者をお願いしている。本来の講義以外に、先生の立場から福祉の魅力発信してほしいと言っている
- 医療関係者、医師からは、自分たちが在宅医療しても自分たちだけでは完結しないと。やっぱり日々見てくれるヘルパーさんのように介護職がいるから成り立っているのだと、リハビリ職からもそのようなことを皆さんに言うてもらうと、効果があつて実際職に就かれると感じている。だから、福祉の魅力を発信する時に、福祉の関係者からだけ発信するのではなくて、他職種から、医師とか、リハビリ職から魅力を発信してもらうと、より説得力があると思う。

【副部長】

- うちの事業所が気になったのでホームページを見ましたという人はいた。フェイスブックの更新をしていて、各事業所の管理者が管理できるようにしてあるので、各事業所で行うイベントをどんどん入れるようにしている。確かに、そういうのを見て楽しそうだと思いますという意見をいただいたことはある。職員が発信することはない。

【委員】

- 学生と繋がりたいが、中々持てない。うちもフェイスブックやっているが、そんなに広がらない。今の学生はフェイスブックしないようで、フェイスブックやっているのは30歳台ぐらいじゃないかと。今の学生さんなら、インスタグラムやツイッターではないかと言われていて、媒体をまず考えないといけない。

【委員】

- 外国人の初任者研修では3割が、一般の初任者研修では2割の方が、ツイッターかインスタグラムで申し込んでこられるから、検索でひっかかる。それはチラシと同じくらい有効。フェイスブックやっている人はあまり見ない。

【委員】

- 就職フェアを、以前なら背広着て相対でやる形から、去年から私服だけにしたりと、気楽

さを出すようにしたら、確かに、学生さん社会人を問わずだが、いろんな法人を回っていただけのことと、話しやすさはあると思っている。

- 介護・福祉だけではなく、長浜と米原が今年は、今まで合同就職説明会を固くやっていたのをスーツ NG や飲食できるようなフェスで開催したら、今までの倍ぐらい参加者があったと聞いている。

【部会長】

- この間、近老協の大会で人材について言われていたが、施設の採用コンシェルジュという言い方で、若手でその採用とか定着にかかわる人材を育てているということ。
- やはり施設長、事務長が言うことは伝わらない話で、20代の職員が自らの施設のことを語ると、非常に説得力がある。今、採用コンサルを入れると、間違いなく、職員の採用とか定着は、全職員で取り組まないといけないということを言われるし、そこに持ってきて若手が生の声で発信できる施設でないと、まずもって採用なんてできないということは本質と思っているので、次の世代が発信することも、皆さんを否定するというのではなくて、この仕組みの中で考えないといけない。

【委員】

- やっぱり産学ということで、大学生などがこういうところに来て、発信してもらえたらいいのではないかと。学生とタイアップするのはどうか。

【事務局】

- 具体的に実施してく段階では、考えられると思う。

【発言者混在】

- 2回目から龍大生などに来てもらったら良いのでは。
- 大学生良いと思う。
- 学生からしたら自分たちがこの業界のイメージを変えたんだと思ってもらえる。
- 今までのイメージとは全然違うかもしれない。

【委員】

- 今、若い子達はインスタグラムなどをやっていると思うが、施設発信でインスタ載せていても、なかなかとり着かないとか、見ないというのがあると思うので、例えばその学生さんに、ボランティアで来て、そこでインスタに載せてくれたら、QUOカード500円あげるとか、何かそういうメリットがあるとおもしろいと思う。

【発言者混在】

- 若い人が考えた、若い人のための企画をするということ。
- 若いだけではなくて、今学生というところ。これなら行きますという意見をもらえれば。
- 先ほどの、他のイベントとの抱き合わせ。
- 今はQUOカード配布なんてあたりまえかもしれない。
- 2回目から学生に来てもらったらどうか。

【事務局】

○どの段階で来ていただくかというのはあるので、まずは根幹のところを部会で決めていただいて、具体的な実行のところでアイデアをいただいたりできるのではと思う。

【発言者混在】

- 学生がこの場に来ても、なかなか話せないのでは。
- この会議室じゃなくて、他の場所でもいいと思う。
- 口の字はだめ。

【事務局】

- 事実を正確に情報発信するということは、皆さん一緒だったと思う。
- また、県職員という立場で言うと、ありがとうというところが、やりがいになっているという話があったが、ありがとうというのは相手の期待に応えた結果ということだとすれば、県民が期待していることは何なのかということも考えられたらと思う。
- また、魅力は何だということを、経験のある皆さんが集まった中でも、明確なものはないとすれば、それを探したり研究するという動きが、例えばそれ自体が、宣伝になるのではとも思った。

【部会長】

○議論がもうちょっと深められたらという部分もあるが、一定全体的に予定していた中身は、一応発言いただいたと思うが、次回できれば、学生さんはどういった形で取り込むかは、難しさはあるが、若者の視点がここに入って議論ができたらという話は、一つ大きなこととしてあったと思う。事業化に向けてとなると、まず具体化しないといけない部分がありますので。

【事務局】

○事業化するにあたって明確にしなければならないのは、ターゲットをどうするか、何を訴えていくか。例えば、発信手段としてCMやイベントも、介護というイメージを一般的に持たしてあげるといことと、それが就職に結びつくかを考えていく必要がある。SNSでも拡散しないと意味がないので、そこを考えていかないといけないとすると、やはりターゲットと何を訴えるかを事業化に向けて収束させていかないといけない。

以上